

編集・発行／荒川区議会 ホームページアドレス <http://www.city.arakawa.tokyo.jp/kugikai/>
〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3 電話03-3802-3111 (代表)

新年号
平成24年第4回定例会号

迎春 新年のあいさつ

あけましておめでとうございます。区民の皆様には、新春をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、区制80周年の節目の年を迎えました。これまでの荒川区の歩みを振り返ると、地域社会の絆や助け合いといった地域コミュニティの力、「地域力」が本区を支えていることを強く実感いたしました。地域の皆様のご努力に深い感謝と敬意を表するとともに、改めて本区の財産である「地域力」を引き継いでいく決意です。

また、区では、基本構想で掲げた将来像の「幸福実感都市あらかわ」の実現に向け、地域防災力強化のため防災区民組織の装備品の更新や充実、生命を守るホイッスル配布事業、待機児童解消に向けた保育施設の整備、認証保育所等の利用者への保育料負担軽減補助の拡大、らく楽商店街モデル事業、コミュニケーション支援ボードの作成、コミュニケーションバス「町屋さくら」の導入など区政の各分野で施策の展開を図り、着実に成果をあげることができました。

さらに、本区の先駆的な取り組みである「荒川区民総幸福度（G.A.H.・グロスアラカワ・ハッピーネス）」の研究が、国内にとどまらず、世界中の関係者から注目を集めております。このことは、区が目指す区民一人ひとりが幸福を実感できる街の実現が重要であることを示しており、今後、この取り組みが基本構想で掲げた「幸福実感都市あらかわ」という将来像の実現に寄与すると考えています。

一方、区を取り巻く社会経済状況は、依然として、停滞傾向を強めています。本年は地域経済の元気を取り戻し、区民の暮らしを守ることが重要な課題であると考えています。

新たな年を迎え、区議会といたしましては、3期目のスタートを切った西川区長と区議会が緊密な連携の下、積極的な政策提言を通じて、区民の皆様の声を十分に反映させた的確な施策の展開を図ってまいります。

結びに、区民の皆様にとって本年が幸多い年となるようお祈り申し上げます。新年のあいさついたします。



議長 小坂眞三



副議長 中村尚郎

議案の審議結果

平成24年第4回定例会
○賛成 ×反対 - 退席
太字は討論のあったことを示す

議案番号・議案名	会派名・結果 (数字は会派人員)							結果
	自由民主党荒川区議会議員団	公明党荒川区議会議員団	日本共産党荒川区議会議員団	民主党・市民の会	あらかわ元気クラブ	日本創 新 党	あらかわ正論の会	
議員提出議案 (1件)								
第21号 患者数が特に少ない希少疾病用医薬品(ウルトラ・オーファン ドラッグ)の開発促進・支援のための法整備等を求める意見書 提出について	○	○	○	○	○	○	○	可決
区長提出議案 (17件)								
第53号 荒川区立子ども家庭支援センター条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	可決
第54号 荒川区立保育所条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	可決
第55号 荒川区暴力団排除条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	可決
第56号 荒川区区民ひろば館条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	可決
第57号 荒川区ふれあい館条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	可決
第58号 荒川区手数料条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	可決
第59号 荒川区廃棄物の処理及び再利用に関する条例の一部を改正する 条例	○	○	×	○	×	○	○	可決
第60号 荒川区地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の 一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	可決
第61号 平成24年度荒川区一般会計補正予算(第2回)	○	○	○	○	○	○	○	可決
第62号 訴えの提起について	○	○	○	○	○	○	○	可決
第63号 訴えの提起について	○	○	○	○	○	○	○	可決
第64号 東京二十三区清掃協議会規約の一部を変更する規約	○	○	○	○	×	×	○	可決
第65号 荒川区議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条 例の一部を改正する条例	○	○	○	○	×	○	○	可決
第66号 荒川区長等の給料等に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	×	○	○	可決
第67号 荒川区教育委員会教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に 関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	×	○	○	可決
第68号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	×	○	○	可決
第69号 幼稚園教育職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	×	○	○	可決

区議会第4回定例会

議員提出議案1件と
区長提出議案17件の
計18件を可決

区議会第4回定例会は、11月29日から12月12日までの14日間の会期で開かれました。本会議の1日目には、4人の議員から区政全般にわたり一般質問が行われました(要旨は2・3面に掲載しています)。本定例会では、意見書1件、議案17件が原案どおり可決されました。

第4回定例会日程

11月29日 本会議	11月30日 本会議
12月3日 本会議	12月5日 文教・子育て支援委員会
12月6日 建設環境委員会	12月11日 文教・子育て支援委員会
12月12日 議会運営委員会	12月12日 本会議

掲載記事のご案内

区政のここをきく
一般質問要旨
茂木 弘議員(自民党)
小島和男議員(共産党)
松田智子議員(公明党)
竹内明浩議員(民主・市民)
議会を傍聴しませんか
採択した請願・陳情
意見書提出

3面・2面

新春を迎えて
—各会派新年の抱負—
各会派の構成

4面

各会派の構成



区政のこうごをさきく

一般質問要旨

区長3期目の区政運営の基本方針と防災まちづくりを問う



茂木 弘
(自民党)

区長3期目の区政運営の基本方針を問う

問 これまでの荒川区政は、正しい方向に進んできたと考えている。区長は今後、区民の幸福実現のために、どのような荒川区をつくっていくかとしているのか。より安全なまちづくり、高齢者福祉の充実、商業の発展、モノづくりの支援など、3期目に当たって重点とする事項や新たな取り組みを含め、区政運営の基本方針を問う。

答 区民の幸福実現に向けた献身、区民が安心して毎日を過ごせる区政の推進、温かい地域社会の構築、地方自治のイノベーションの4つの視点を中心に全力で区政運営に当たる。最優先課題の一つである災害に強い荒川区をつくることを始め、産業振興や就労支援、高齢者や障がい者の支援など、区政のあらゆる分野で施策の充実を図っていく。

防災まちづくりを問う

問 木密地域の解消に向け、区の努力は理解しているが、一向に進

あると考えるがどうか。

答 市街地整備指導要綱では、宅地開発に対しても、社会状況の変化に応じて適宜見直してきた。しかし、近年の宅地開発動向を見ると、指導要綱を無視する宅地開発業者が現れるなど、法的拘束力を持たない指導要綱の限界を感じている。宅地開発に対する条例化の早期実現に向け全力で取り組む。

問 コミュニティバスは、日暮里・尾久地区で運行されておらず不公平との声を聞く。日暮里地区から区役所や町屋地区への移動は不便である。日暮里駅からのバスは、融合施設への来客を期待するためにも大きな意味を持つ。融合施設開設にあわせ早期実現すべき。

答 コミュニティバスの新規路線導入は、採算性の確保や既存の路線バスとの競合、ルートの設定等様々な課題の解決が必要である。今後、日暮里ルートを含め区内各地域への導入について道路管理者や交通管理者、バス事業者、地元町会なども連携し検討を進める。

その他の質問項目
○区内製造業の実態に即した施策展開について
○地域コミュニティのさらなる支援について
○旧町屋ひろば館の保育園として活用について

災害でひとりの犠牲者も出さないための対策と区民のくらし応援の緊急対策を問う



小島 和男
(共産党)

災害でひとりの犠牲者も出さないための対策を問う

問 家具転倒防止器具取付費助成事業について、助成額を引き上げて、自己負担をなくすことや態勢の強化など手立てをつくすべき。

答 家具類の転倒・落下防止等の重要性を多くの区民に認識していただくため、身の回りの防災対策の必要性を広く周知し、防災対策の一層の推進に努める。

問 木造住宅の耐震補強工事は、耐震化の目標に到底及んでいない。不接道宅地や簡易補強工事への助成も実施し、耐震化を一気に引き上げることが必要ではないか。

答 区の耐震化補助制度の内容は、現在23区でトップクラスであり、今後も相談体制を強化し促進していく。不接道など違反建築物への助成等は、今後も研究していく。

問 原発事故は現在も被害が拡大している中、節電努力と同時に自然再生エネルギーへの切り替えが

重要である。区民の命を守るため区長は原発ゼロの立場に立つべき。

答 区は省エネルギー対策を進めるとともに、再生可能エネルギーの導入促進に力を入れており、今後も引き続き積極的に取り組む。区民のくらし応援の緊急対策を問う

問 来年度、日暮里地域で保育園待機児童の増加が予想される。待機児童ゼロにするため、緊急対策として廃止された区の施設等を活用した認可保育園を設置すべき。

答 保育需要に応えるため、タヤけこやけ保育園を開設し、認可保育園の定員を大幅に拡大する。今後も、公共施設の活用等様々な方策で保育施設の整備に努める。

問 日暮里地域の小中学校では、児童生徒数の増大で空き教室をすべて活用しても教室が足りなくなるのではないかと懸念されている。新たな学校建設も含めた施策を打ち出すべき。

答 日暮里地域の児童生徒数は、当面増加傾向に推移すると見込ま



れる。一時的に教室が不足することも想定し、対応を検討している。

問 重度障害者の住まいは、「スクラムあらかわ」開設で確保されたが、期限が経過すると出なければならず、その先の対策がない。区が責任を持って終の棲家を確保すべき。

答 区では、「スクラムあらかわ」を開設するとともに、今年度からはグループホーム設置についての区独自の補助制度を創設した。今後とも、グループホームの設置について支援策を実施していく。

その他の質問項目
○23区長会会長としての国保のあり方を問う
○中小企業・業者支援策について
○日暮里富士見坂の眺望権を守るための働きかけについて
○日暮里地域を始め全地域へのコミュニティバス拡大について

議会を傍聴しませんか

本会議、委員会は傍聴することができません。区議会を傍聴することは、区議会の活動を知る身近な方法です。

傍聴をご希望の方には、会議当日に区役所5階の議事事務局で傍聴券を交付します。定員は本会議80人、委員会15人です。

各会議の開始予定日時は区議会ホームページに掲載しています。詳しくは、議事事務局までお問い合わせください。

内線 3614



詳細については現在作成中の会議録がほしい、区立図書館及び区役所2階の情報提供コーナーにおいて閲覧できます。また、荒川区議会ホームページ (<http://www.city.arakawa.tokyo.jp/kugikai/>) では、平成13年5月以降の本会議録を検索できるとともに、過去1年間の本会議録画像を配信しています。ぜひご利用ください。



あらみ あら坊

区長3選における区政運営と震災後の取り組みを問う



松田 智子 (公明党)

区長3選における区政運営を問う
 区長が「区政は区民を幸せにするシステムである」とのドメインを掲げ、厳しい財政状況にあっても、区民生活に直結した政策を多数展開してきたことを評価する。西川区政3期目の4年間において目指すべく方向性を問う。
 答 「災害で一人の犠牲者も出さない安全安心の街づくり」のため、初期消火等に有効な水利を整備していく。福祉や健康づくり、障がい者支援等の事業を進めるため、行政改革の断行も重要である。3期目においても、様々な課題の解決を図り、区民の幸福度を高めるよう全力で取り組んでいく。
 問 荒川区が「財政力のある街ラッキンク」で全国総合8位となったことは、区政の努力を評価する

ものとする。一方、現在の世界的に危機的な社会情勢にある中において、今後の区の中・長期的な財政運営についての見解を問う。
 答 これまでも幸福実感都市の実現に向け、健全な財政運営に配慮し、区民サービスの向上に取り組みしてきた。今後も、財政指標に十分留意し、将来を見据えた施策を講じることで、中・長期的にも健全な財政運営を確保していく。

震災後の取り組みを問う
 東日本大震災では、多くの職員、消防団員が犠牲となった。災害発生時、区は職員と消防団に対する安全確保について明確にする必要がある。また、災害時避難所の運営に当たり、的確な判断と指揮の執れる防災リーダーの育成を強化すべきと考えるがどうか。
 答 緊急時、職員に対し避難命令を出す等の安全確保体制を築く。消防団員には、情報共有の徹底を図り、情報伝達資器材の整備等、

消防署と連携し、万全な体制を取る。また、防災リーダーの育成は、各消防署と連携し、養成講習会を開催しており、今後もご提案のあった「避難所HUG（ハグ）」を取り入れた訓練の実施など開催日時や内容を工夫していきたい。
 問 避難所となる施設は、小中学校の非構造部耐震化は点検済みとのことだが、ひろば館、ふれあい館、福祉避難所の非構造部の点検と修繕はごまかして行われているのか。早急に点検し、修繕の計画を区民に示すべきと考えるがどうか。
 答 ひろば館、ふれあい館、福祉避難所等については、区の専門技術職員が現地調査を実施しており、平成24年12月末には完了する予定である。これまでの調査で非構造部材の危険性が指摘された施設はないが、修繕等が必要と判断された場合は、早急に適切な対応を図る。

荒川区の防災会議の分会として、町会・自治会、学校、医療、消防団等で活躍している女性リーダーの方々が参集する「女性だけの防災会議・専門部会」の設置・開催を提案する。また、区の防災会議への女性の参画割合について、3割を目指すよう要望する。
 答 女性だけの会議体の設置については、女性の視点で課題を分析し、防災対策に反映することが期待できるもので、積極的に検討を進める。また、女性等区民の意見を取り入れた防災会議の運営についても可能な限り努力していく。

意見書提出
 本定例会では1件を可決し、関係機関に提出しました。
 患者数が特に少ない希少疾病用医薬品(ウルトラ・オーファンドラッグ)の開発促進・支援のための法整備等を求める意見書
 難病と言われる疾病には有効な治療薬・治療法がなく、患者数が特に少ない希少疾病用医薬品(ウルトラ・オーファンドラッグ)患者数1000人未満)は医療上の必要性が高く、他の医薬品と同様、その開発を円滑に進めることが重要です。
 そのため、希少疾患関係患者団体はこれまでに「特定疾患への指定期、及び治療薬開発の推進」を求める署名活動や「ウルトラ・オーファンドラッグ開発支援と我が国の創薬・難病対策に関する要望」を提出するなど、政府・関係省庁への積極的な要請活動を行ってきました。その結果、厚生科学審議会医薬品等制度改正検討部会など政府・関係省庁からも前向きな検討が強化されましたが、しかし、未だ創薬実現に向けた明確な前進は見られません。
 例えば、近年、独立行政法人国立精神・神経医療研究センターは世界に先駆けて縁取り空胞を伴う遠位型ミオパチー(DMRV)治療における「シアル酸補充療法」の開発研究を進め、患者団体の要

大規模災害に強い防災街づくりのさらなる推進と特別支援学級の充実を問う



竹内 明浩 (民主・市民)

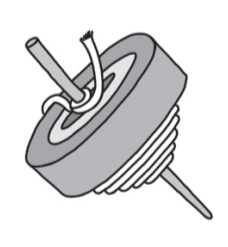
大規模災害に強い防災街づくりのさらなる推進を問う
 スタンドパイプは路上の消火栓に直結して放水するため、初期消火を迅速に行うことができ、初期消火資器材として有効利用でき、木密地域に優先的に配備し、将来的には全町会、小中学校等に

も配備すべきと考えるがどうか。
 答 スタンドパイプはD級ポンプに比べ操作が容易で、狭い道路では大きな効果が期待できるが、断水時は使えない弱点もある。スタンドパイプ、消火用バケツ、D級ポンプなどそれぞれの特長を生かし、防災体制充実に努める。

災害に備えて活動している区民レスキュー隊について、情報共有や効果的な活動の推進、技術向上の観点から、連絡会を設置すべきと考えるがどうか。
 答 レスキュー隊の連絡会については訓練の充実や技術の向上、活動における課題解決等を図る上で有効な会議体であり、開催に向けて検討していく。
大規模災害時、ペットについても避難所への同行避難を前提とした一定のルール作りを進める必要があると考える。また、飼い主に対し、災害時に備えた啓発活動をどう進めていくのか。
 答 ペットの防災対策の必要性は、動物愛護と安全性の観点から十分認識している。動物の避難方法について、一定のルール作りも考えている。また、飼い主の責任も重要であり、しつけ等について

の啓発を行っていく。
特別支援学級の充実を問う
 情緒障害など特別な支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあることや、東京都の特別支援教育推進計画第三次計画を踏まえ、早期に通級指導学級の設置計画を策定すべきと考えるがどうか。
 答 情緒障害等通級指導学級については、来年度、尾久宮前小学校に設置する。また、都の計画を踏まえ、小学校2校、中学校1校に新たに設置する必要がある。関係部署と調整の上、計画を策定する。
その他の質問項目
 ○コミュニティスクール構想にみられる子ども・学校・地域の連携について

採択した 請願・陳情
 趣旨採択
 ・10・23通達の強化を求める意見書の提出に関する陳情



意見書提出

請に応えた製薬企業が独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業を活用して取り組み、医師主導によるDMRV治療薬の第I相試験を終了しました。その後も独立行政法人科学技術振興機構(JST)の研究成果展開事業(AISTEP)の助成を受けましたが、第II・第III相試験を行うには10から20億円とも言われる巨額な資金が必要であり、財源不足のため開発が暗礁に乗り上げたままになっています。
 難病と闘っている希少疾病患者は、日々進行する病状を抱え、もはや一刻の猶予も待てない深刻な状況であり、計り知れない不安を抱きながら一日も早い希少疾病の治療法の確立を待ち望んでいます。
 よって、荒川区議会は、国会及び政府に対し、下記事項を早期に実現するよう強く要請します。

平成25年荒川区議会第1回定例会は2月中旬に開会する予定です。

- 1 患者数が特に少ない希少疾病用医薬品(ウルトラ・オーファンドラッグ)の開発を促進・支援するための法整備を行うこと。
- 2 遠位型ミオパチーをはじめとする希少疾病に関する研究事業の更なる充実強化と継続的な支援を行うこと。
- 3 希少疾病用医薬品の早期承認と医療費補助を含む患者負担軽減のための措置を講ずること。(衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・文部科学大臣・厚生労働大臣・経済産業大臣あて)

新春を迎えて

各会派新年の抱負



自民党

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

我が国は、東日本大震災からの復興も道半ばの状況の中、国民の生活は一層厳しさを増しております。昨年11月の区長選挙では、政策協定を結び推薦した西川太一郎区長が再選されました。

私たち自民党区議団は、区民の皆さまのご要望を確実に把握し、弱い立場の方々をはじめ必要な人に必要なサービスを適切に提供するとともに、そのための財源を生み出すさらなる行政改革の徹底と健全性を維持した積極的な財政運営を行うことを基本理念として、西川区政を支え、「自助」を基本に「共助」と「公助」が補完し合

う安全・安心な地域社会の実現に向け全力を尽くしてまいります。

「防災対策」

待ったなしの状況にある巨大地震等への対策として、一人の犠牲者も出さない災害に強いまちづくりに向け木造密集地域の改善、建物の耐震化、東京都の不燃化特区制度の先行実施、防災区民組織が保有する資器材や備蓄品の更新等の支援を実現しました。東京都水道局・下水道局に対しては、生命の維持に不可欠な水・そして避難生活に極めて重要なトイレの確保を図るため、上下水道施設の耐震化の促進を要請しました。今後、隅田川の水を活用した消防水利の整備も要請してまいります。

「就労支援」

現在の厳しい雇用情勢にきめ細やかに対応し、区民の雇用促進と区内事業所の人材確保をより効果的に進めていく組織として、就労

支援課の設置を実現させました。

「健康・福祉・障害者支援」

全ての区民が生涯にわたって健康に暮らすことができるよう、介護サービスの質の向上、介護予防対策の充実、早世予防、健康増進策の推進を求め、総合的な介護予防や生活支援サービスを提供する、「介護予防・日常生活支援総合事業」や医療と福祉の連携事業、35〜39歳健診、糖尿病対策事業を実現させました。また、障害者の就労支援対策や、親なき後の対策についても充実を図ってまいります。

公明党

新年を寿ぎ、謹んでご挨拶申し上げます。

昨年は、我が党の立党精神である「大衆とともに」の発表より50周年を迎えました。東日本の被災地への復興対策はもとより、我が党の原動力である、地域に深く根差した全国3000人の議員ネットワークで、現場の声に耳を傾け常にブレずに政策を実現してまいりました。

私たち公明党区議団は昨年10月に基本政策「荒川・公明・ビジョン1.0」を掲げ、以下の諸施策の実現を目指してまいります。

① 行財政改革の更なる推進

主なものを挙げてみますと

- ② がん対策の強化
- ③ 高齢者福祉施策の充実
- ④ 待機児童問題解消と子育て支援策
- ⑤ 障がい者福祉施策の充実
- ⑥ いじめ防止対策の強化
- ⑦ 文化・芸術振興策の推進
- ⑧ 区内産業の支援強化
- ⑨ 省エネルギー施策の充実と促進
- ⑩ 区民を守る防災施策の充実と地域防災力の向上等々

公明党区議団6名は、区民の皆様との対話を軸に絆を深め、全ての課題に全力で取り組み施策に反映させ、実現してまいります。今後とも区民の皆様の高層のご指導、ご支援を賜ります様お願い申し上げますと共に、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

共産党

新年明けましておめでとうございます。

東日本大震災、福島原発事故から1年9か月を経過した昨年末に区長選、衆院選、都知事選挙が行われました。

日本共産党は、原発ゼロ、消費税増税の中止を求めるとともに住民の命と暮らしを守る政治実現に全力をあげてきました。引き続きみなさんとともに全力をつくします。長引くデフレ不況に加え、所得の減少、年金の削減等で区民のくらしと地域経済は、大変厳しい状況におかれています。いまこそ自治体の本来の役割が発揮される時です。とりわけ、巨大地震から区民の命と財産を守る、子育て支援策、安心できる介護サービスな

民主・市民

新年あけましておめでとうございます。

大規模災害の教訓をいかし災害に強い街づくり、そして子どもから高齢者まで「癒しの場と活躍の場のあるまち荒川区」を目指し取り組んで参ります。

民主党・市民の会の清水ひろし、世の喜代、竹内あきひろは「区民一人ひとりが納得し幸福を実感出来る区政」を目指します。

「福祉」高齢者や障がい者の雇用促進のための業務拡大、在宅介護サービスの充実と小規模多機能型介護事業の推進、若年層・生活保護受給者の就労支援強化。

「子育て・教育」特別支援学級のさらなる充実、スクールソーシャルワーカーの増員、待機児童対策、こにこすくーる・学童クラブで

ど緊急課題は山積しています。日本共産党区議団は、基金24.8億円を活用をはじめ計画的な財政運営で「原発ゼロ・自然エネルギーの街」「宣言」太陽光発電システム導入の補助制度の拡充、「犠牲者ゼロ」に向け今すぐできる家具転倒防止・住宅耐震化補助事業の抜本拡充・待機児童ゼロへ保育園の増設・介護保険料、利用料の減額免除制度の創設、「ふるわり200」の回数拡大・コミュニティパスの区内全域運行・住宅リフォーム助成と適正賃金を保障する区の契約ルールの確立で経済活性化など実現を求めて参ります。新しい年は都議選、参院選もあり、財界大企業・アメリカいなるの政治から抜け出し、国民が主人公の社会にしていいため、みなさんと力を合わせて頑張り参ります。

元気クラブ

経済も政治も幸福実感には程遠い有り様。新年も地に足をつけて「生きられる町、暮らせる政治」に全力を尽くします。斉藤ゆうこ

日本創新党

二千年以上一貫する奇跡的な縦糸（血筋、神話、信仰、言語）を地域で守る中で区民の幸せを増やします。大局観を持ち、地道に行動！

正論の会

原発事故・トンネル崩壊は日本人が持っていた誠実・清廉・勤勉が喪失した結果。今年こそ、日本人らしさを取り戻し日本を再建！

改革の会

今年には日本維新の会の石原慎太郎代表、橋下徹代表代行と共に安心して託せる日本を地方から実現できるよう頑張ります。藤澤志光

各会派の構成

(平成24年12月28日現在)

自由民主党 荒川区議会議員団 13人

幹事長 志村 博司
副幹事長 守屋 誠
副幹事長 茂木 弘

公明党 荒川区議会議員団 6人

幹事長 萩野 勝
副幹事長 吉田 詠子
菊地 秀信
松田 智子
保坂 正仁
中村 尚郎

日本共産党 荒川区議会議員団 6人

幹事長 小林 行男
副幹事長 安部キヨ子
横山 幸次
斉藤 邦子
相馬 堅一
小島 和男

民主・市民の会 3人

幹事長 清水 啓史
副幹事長 瀬野 喜代
竹内 明浩

あらかわ元気クラブ 1人

幹事長 斉藤 裕子

日本創新党 1人

幹事長 小坂 英二

あらかわ正論の会 1人

幹事長 浅川 喜文

荒川区改革の会 1人

幹事長 藤澤 志光